

第3学年〇組 道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時

- 1 主題名 分かり合う心
- 2 ねらい まる子とたまちゃんが自分の立場だけではなく、相手の立場を考えることで分かり合えた心情を考える学習を通して、お互いの立場を理解し合うことで、自分と異なる意見も大切にしようとする態度を育てる。

教材名 「たまちゃん、大すき」（出典：「新しいどうとく 3」東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

中学年の内容項目「B 相互理解・寛容」には、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見を大切にすること。」とある。広がりと深まりのある人間関係を築くためには、自分の考えを相手に伝えて相互理解を図るとともに、謙虚で広い心をもつことが必要である。

第3学年の段階においては、自他の立場の感じ方、考え方の違いをおおむね理解できるようになる。しかし、違いを受け止められずに感情的になったり、それらの違いから対立が生じたりすることも少なくない。

そこで本学習を通して、相手への理解を深め、相互理解の大切さを理解しようとすることが、よりよい人間関係を築くために必要だということに気付かせたい。そして、自分と異なる意見を大切にしようとする道徳的実践意欲と態度を身につけさせたい。なお、このねらいは、第5学年及び第6学年では、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」へと発展していく。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本内容項目「B 相互理解・寛容」は第3学年で扱う最初の授業である。本学級は、活発で元気な子が多く、自分の意見を相手に伝えられる児童が多い。しかし、国語の話し合い活動や体育のチームの作戦タイムなどで、相手の立場を考えることができずに、自分の思いや考えを一方向的に伝えてしまい、思いがうまく伝わらずに悩んでしまったり、トラブルになってしまったりすることが多々ある。多くの児童は、自分の考えや意見を優先してしまい、相手の立場になって考えや意見を考えようとするまでは至っていないのが現状である。本教材を通して、相互理解をするためには、自分の立場だけではなく、相手の立場になって考えや意見を考えることの大切さを考えさせることで、よりよい人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を育てたい。

児童の実態を把握するために記述式のアンケートを行った。

アンケート項目
①だれかとけんかをしたり、もめたりしたとき、どんなことを思ったり、考えたりしますか。
・相手に原因がある 25 （言い方がきつい、ちゃんと言ってくれなかった、怒っていた、原因は相手にある 最低だと思う 自分のことを怒らせてきた など）

<ul style="list-style-type: none"> ・少し自分も悪いかなと思う 7 (謝れるか心配、落ち着いたら自分にも原因はあったかなと思う、これからずっと仲が悪くはいたくない) ・けんかをしない 2 (・ケンカはしない ・家ではするけど友達とはしない)
②自分と仲間の考えがちがうなど感じるときはどんな時ですか。
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳や国語の授業で、自分の考えと友達の考えが全然違うとき ・言い合いになったときに、自分と全然違う意見を言っているとき ・面白いと思うことが友達と違ったとき ・自分の得意不得意が友達と違うとき ・誘ったのに断られた時など
③相手の「考え」や「したこと」を考えて、行動したり、何かしたりしたことはありますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・困っているときやけがをしているときに優しく声をかけた ・何か落としたときに、拾ってあげた ・友達が怒りそうだったので、怒る前に周りに声かけをしてあげた ・ドッジボールで球を投げたそうにしていたので、譲ってあげた
④自分の考えたことや本当の気持ちを分かってくれたり、考えてくれたりした経験はありますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・分からないときに自分が「教えて。」と言う前に友達がさっと助けてくれた。 ・転んでしまったときに「大丈夫。」と声をかけてくれた。 ・朝マラソンや遊びに行くときに、「一緒に行こう。」と声をかけてくれた。 ・友達が「〇〇の気持ちわかるよ。」って言ってきて、優しい気持ちになった。 ・鉛筆や消しゴム、本などを落とした時に、友達が拾ってくれた
⑤仲間ともっと良い関係になるためにはどんなことが大切だと思いますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・よく話す人も話さない人ももっと話をたくさんする。 ・みんなで笑い合えたらもっと良い関係になると思う。 ・友達でも友達じゃなくても、困っている人がいたら助け合えたら良いと思う。 ・相手がしそうなこと、思っていることをもっと考えれば、いつか気持ちが分かると思う。 ・みんながぼくのためにもっと怒らない環境にしてほしい。

上記の道徳アンケートの結果を見ると、問①から、本学級の多くの児童は、ケンカをしたときやもめたりしたときには、自分本位な立場で物事を判断している児童が多いことがわかる。少数ではあるが自分にも原因があるのではないかと考える児童もいた。またケンカを全くしないという児童もいた。

問②からは、学校生活の中では、授業の中で自分と相手の考えが違うことに気付く場面が多いこと分かる。しかし、普段の生活の中や、もめた時など、意見が対立しているときなどのことは、考えに相違があるとはあまり考えていない児童が多いことが分かった。

問③では、何かをしてあげた、助けてあげたなどの行動面に思い浮かぶ児童が多いことが分かる。少数ではあるが、相手の気持ちを先に考えて行動をしている児童もいた。問④でも同様に、

何かしてくれたことで自分の気持ちを分かってくれたと感じる児童が多いことが分かる。少数ではあるが、自分の気持ちを分かってくれた経験のある児童もいた。

問⑤からは良い関係を築くために、どうしたらよいのかを考えさせた。しかし、普段の様子を見てみると、それを実践している児童は少ない。自分本位な考えで行動している子も、アンケートの回答では、こうしたほうが良いのではないかと自分の考えを書いている児童もいた。やはり、考えることはできるが、行動につながってはいない実態が分かる。道徳的実践意欲と態度を育てることが重要だと考えた。

(3) 教材の特質や活用方法について

主人公の「まる子」と仲良しの「たまちゃん」は二人でタイムカプセルを埋めに行こうと約束をする。まる子はタイムカプセルを埋めることを心待ちにしていたのに、たまちゃんは約束の場所に来なかった。約束を心待ちにしていたまる子は、約束を守らなかったたまちゃんのことが許せない。しかしまる子はたまちゃんと同じような立場になったときに、初めてたまちゃんの気持ちを理解できる。また、たまちゃんも、初めはまる子の気持ちを考えていなかったが、同じような立場になることでまる子の気持ちを理解できる。お互いが相手のことを思うこと、そして互いの立場を自分自身が経験することで、互いの気持ちを理解できるという内容である。

そこで本教材から、考えさせたい視点を以下の通りとする、

○〈まる子もたまちゃんも、自分の思いを優先してしまい、相手の気持ちを考えていなかった心情を考えさせる〉

約束をしたものの、まる子との約束を破ってしまうたまちゃん。タイムカプセルを埋めに行くことを心待ちにしている、約束に来ないたまちゃんが許せないまる子。二人の心情をそれぞれの立場で考えることで、相手の気持ちや考えを考えずに自分の気持ちや考えを優先してしまった二人の気持ちに共感させる。

○〈まる子とたまちゃんがお互いのことを思い、相手の立場を経験し、相手の気持ちや考えに気付けた心情を考える〉

相手の考えや気持ちが理解できた心情を、まる子とたまちゃんがお互いに相手に思いを伝える場面での役割演技を通して、二人の心情を体験させ考えさせる。また相手の気持ちを分かろうと思いつけ、相手の立場を経験したからこそ理解し合えた二人の心情を捉えさせる。

以上の視点で考える活動を通して、仲間とよりよい関係を築くためには、相互理解が深め、相手の立場になって考えることが大切だと考えさせ、道徳的実践意欲と態度を育てたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 研究協議会における視点の本授業での工夫

(1) 「考え、議論する道徳」の授業を充実させるために、どのような工夫改善を行ったか。

- ・展開後段で、まる子とたまちゃんが相手の考えや意見に気付く場面を役割演技で考えさせる。多面的・多角的な意見が出る場面仲間と考えを交流する場面を設定した。
- ・道徳的実践意欲と態度を育てるために、教材を通して、自分のことについて振り返り、本時の学習から学んだことを感想に書く場面を設定する。教材を通して、自我関与できるようにした。

(2) 学習活動に着目した評価をどのように工夫したか。

- ・展開後段で価値に対してワークシートを記述させることで、一般化した自分の意見や考えを表出させる。

- ・感想を書かせることによって、価値の深まり、教材、仲間との交流を通した振り返りを評価する。
- ・仲間との交流場面を設定し、机間巡視をし、子供たちの交流や発言から児童の様子を捉える。

5 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ◎評価の視点
導入	1 アンケートを紹介する。 仲間と良い関係にいるために大切なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・優しくする。 ・怒るようなことを言わない。 ・仲良くする。 ・時には我慢する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と良い関係でいるためには自分が我慢したり、行動したりすればよいということについて捉えさせる。
展開	2 教材を読み、話し合う。 (1) まる子はたまちゃんが来なくてなぜ悲しかったのでしょうか。 (2) たまちゃんはかぎをかけたり、電話をしたりしませんでした。まる子ならどんな気持ちを分かってくれるかと思っています。 (3) 二人はお互いのどんな気持ちに気付いたのでしょうか。	<p>まる子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束したのに来ないなんてひどい。 ・本当は一緒に埋めたかった。 ・もう友達じゃない。 ・こんなに楽しみにしていたのに許せない。 <p>たまちゃん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まるちゃんなら許してくれるかと思っていた。 ・明日いけなかったことを言おう。 ・こんなに怒っているなんて思わなかった。 <p>まる子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまちゃんにも理由があったんだね。 ・たまちゃんも事情を考え 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を読む前に、登場人物を知らない児童のために、二人の人物関係が仲の良い友達であることを紹介する。 ・場面絵を紙芝居形式にして教材を提示することで関心を高める。 ・まる子が「タイムカプセルを埋める」という特別なイベントと「明日」を心から楽しみにしていたことを押さえる。 ・まる子がこんなに許せないのはなぜなのか問うことで、自分は約束を楽しみにしていたこと、そしてその約束を破ったたまちゃんが許せなくて、自分本位になっているまる子の気持ちを考えさせる。 ・たまちゃんが、きっとまる子ならば分かってくれると相手の立場を考えずに、自分の立場で考えていた気持ちに共感させる。 ・たまちゃんも悲しかったという心情を抱えている。お互いにその気持ちを相手に伝えられていないことを確認する。 ・まる子とたまちゃんの立場を役割演技によって体験させ、心情を考えさせる。 ・お互いの気持ちや考えをそれぞれが経

	<p>【補助発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜまる子はあるなに許せなかった気持ちが変わったの。 ・まる子とたまちゃんが互いの気持ちに気付けたのはどうして。 ・もし二人とも気付かなかったとしたら。 <p>(4) クラスの仲間ももっとお互いに気持ちや考えが分かり合えたら、どんな良いことがあると思いますか。</p>	<p>ていなくてごめん。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火を見ていたから気付けたよ。たまちゃんの気持ちに気付けなくてごめんね。 <p>たまちゃん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まるちゃんにちゃんと言えよ良かったのに、自分のことばかりでごめん。 ・まるちゃんのこと考えてなかった。 ・まるちゃん、こんな寒い中で待たせてごめんね。 	<p>験したことで、分かり合えた状況に十分共感させるために、それぞれが気付いた場面を挿絵で提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まる子の気持ちが変わった理由は、たまちゃんの立場を考えることができたからだということに気付かせる。 ・たまちゃんもまる子の立場が分かったことで、自分の立場だけではなく、まる子の気持ちを考えることができたことに気付かせる。 ・前の場面からの二人の心情の変化を板書から捉えさせる。 ・本時の学習を通し、相互理解の価値を一人で振り返る時間を十分に確保する。 ・多様な価値に触れられるように仲間との交流の時間を確保する。 <p>◎相互理解がなぜ大切なのか自分の意見を考えたり、仲間と交流をしたりすることで、多面的・多角的に考えることができる。</p>
<p>終末</p>	<p>3 友だちの意見や考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたり、友だちとの交流の中で考えさせられたりしたことがあったら書きましよう。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・感想を書かせることで、授業を通して学んだこと、自分が考えたことを一般化させる。 <p>◎本時の学習から、自己を見つめたり、仲間と意見交流をしたりすることで、振り返りをワークシートに記入している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互理解ができた嬉しさと、それによって相手との関係が深まった経験を紹介する。

6 他の教育活動との関連

<事前指導>

- 通年 思いやりアンケート（2ヵ月に1回実施）
- 4月 学級経営方針を話す。学級目標を決める。（学級活動）
- 5月 学年遠足（学校行事）
仲間の気持ちを考え、クラスや班で協力する。
- 7月 ティーボール（体育科）
フェアプレー精神で敵味方関係なく、お互いチームや仲間を尊重しながらゲームを楽しむ。



<道徳の時間>

- 10月 教材名「たまちゃん、だいすき」（本時）
お互いの立場を理解し合うことで、自分と異なる意見も大切にしようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。



<事後指導>

- 11月 マラソン大会（学校行事）
仲間と高め理解し合い、記録を伸ばしていく。
- 11月 いじめゼロキャンペーン（学級活動）
いじめをなくすために必要なことを個人、学級で考えてお互いの気持ちを考えて行動する。
- 11月 オリエンテーリング たてわり遊び（学校行事：たてわり活動）
異学年との交流を通して、他学年や下級生、みんなの意見を聞いて、活動を進めようとする態度を育てる。
- 1月 ゴール型ゲーム（体育科）
フェアプレー精神で敵味方関係なく、お互いチームや仲間を尊重しながらゲームを楽しむ。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】


相互理解の大切さを学び、相手の立場や考えを大切にすることの良さを自分で考えたり、仲間と交流したりすることで、多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

本教材を学習し、自己を見つめたり、仲間と意見交流をしたりすることを通して、相手の立場になって気持ちや心を考えることの大切さについて考えている。

8 板書計画

まろ子と同じ立場



まろ子が言ったから
おまけに
たまちゃん

一人の中でまろ子は
「おめんね。」
「おめんね。」
はじめて気がいた。
まろ子に言われて

お互いの気持ちを理解した

分かると、仲良くなる → 学校が良くなる。
助け合える 友達になれる。
もど深い友だちになる。 何かあっても仲のせいで
不安、なやみを消す。 相手のことを考えたら...
自分と相手もよく知れる。

怒り、思えてくる
「まろ子が怒るとは
すごく怖いと思っ
た。」
考えた。これは


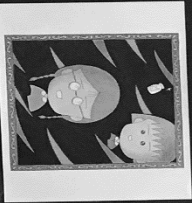
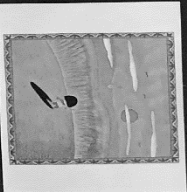
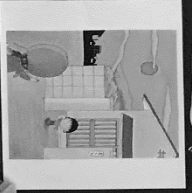

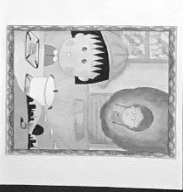
お互いのことを
分かるといい

寒い中
待っていたのに
きてほしかった。
おどすぞい
ゆるさない

まろ子
たまちゃん

明日が来ると
早く明日に
たまちゃん
一緒にいた
一緒に来た

たまちゃん
たまちゃん
たまちゃん

☆友だちの意見や考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたり、友だちとの交流の中で考えをせられたりしたことがあったら書きましょう。

☆クラスの仲間とお互いに気持ちや考えがもっと分かるといいな、みんなが思いあがるようなことがあったら書きましょう。

道徳ノート「だまおさん、大すき」
名前（ ）